

家庭の中の教育のみが 家庭教育でない

人間交渉の直接経験の習得 櫻井磐女校長語る

或の種の家庭では相當な知識階級であり、而も教育殊に児童教育の方面には家内中が注意してゐるやうな所でも往々にして家庭教育の眞意を全く曲解してゐる事がある。さうした家庭では「家庭教育とは自分の家庭の中に於てのみする教育だ」と云ふやうに思つてゐて、自分の家の子は他所の家庭の子とは全く異なつた教育をしてゐるのであるから、他所の子供とは遊ばせてはならない、例へば他所の子供と遊ばせても自分達の主義に反する事は決してさせてはならぬ、更に

他所の 家庭へは遊びにやつてもその家庭の風習を覺悟込まないやうに充分に注意しなければならぬ。等と馬鹿氣さつた事を、さも知つたか振りをして教育者振る親達がある、蓋し家庭教育の眞意をばき違へたもの、随一であらう、そんな狭い意味をもつ家庭教育は寧ろなきに知かすで家庭教育とは

實際の 社會をありの儘に見せて社會生活の中にあるよゝ要素を出来る丈け多くその子供に取入れさせる事である、故に近所の子供とは出来るだけ多く接する事である、故に近所の

見聞す る事に依つて子供は何等かの教育も受けて行くのである、斯うした教育こそ眞の家庭教育で社會には自分の家以外にもつと／＼廣い所があり、良事も存在するのだと云ふ事を覺えさせる事なのである。もつと廣い意味で云へば人間と人間との交渉社會的生活の直接経験を待たせる事が家庭教育の

ゐる自分の子が可愛ければ可愛だけ近所との交渉を繁くし出来るならば我が子の教育の爲めに相互の家庭を解放しお母さん同志だけでも充分な精神的了解を得て置いて自分達母が寄り合つて教育して行くのだと云ふやうに迄考へるやうになつてほしいものである

自分の

完全で他人の家庭は皆よろしくないので決して考へて貰ひたくないものである(磐城高等女學校校長櫻井賢文氏談)



家庭の欄

睡蓮の夜開き秘法
睡蓮は五月から咲き始め九月まで紅色、黄色、白、緋、單重瓣等香り床しい姿を人も草木もほれかゝる苦熱の中に見せてくれます。盛

城銀行前邊へ變更して大規模なる品評會を行はんと寄り寄り協議中なりしが此程決定を見るに至つたので來月十日幹部會を開き品評會に關する各種規定の協議を遂げ二十日前後に於て盛大に開催する筈である

紹介所閑散

如何に不景氣でも農繁期に臨めば職業紹介所の門を叩くものは激減するもので、毎月普通一日に四五人の求職希望者が訪れる平町營の職業紹介所にも昨今では漸く一人か二人さては一人も行かない日などがあるので却つて求人側の要求に應ずる事が出来ず需給の圓滑を缺いてゐる

平町外二ヶ村

平町及平窪、好間村等では從來何れも各町村單獨にて二毛作の品評會を行ひ來てゐたが斯業者の健全有利なる花では平面觀賞の逸品として非常に發達して來ました所がその名の示す如く三時頃から花を閉じ明朝まで睡つて仕まふ睡蓮を人工的に變化せしめて夜間でも花を開いたまゝ夜の賞玩に供する事ができます。それに開花のうち花首の下へ注射器を以て十倍位のホーサ

る發達進歩を圖るには聯合品評會を開催して各自の栽培等に改善を加ふが提議である事に着目したので最初の試みとして前三ヶ村の二毛作立毛品評會を開催する事となつたが審査日割は六月一日好間村二日平窪村三日平町であるが出品點數は一町村二十點以上の筈なれば總點數百點を突破するに至るべく見込まれてゐる

小斜坑着炭

石城郡小田炭礦では新斜坑の開鑿を計畫してゐたが同坑は一日三百五十噸の優良炭を掘出す事が出来るので其急務なるを要する爲二十日鉄入式を行ひ引續き作業に従事する事となつた

四倉爾市準備

責任石城販賣利用組合では既記の如く昨年四倉町の爾市場開設成績は好果を收めたので本年は春爾からそれを行ひ組合員の福利を増殖すべく計畫中なりしが同地方の露況から見れば來月十日頃からの模様にて既に各種準備に取掛つてゐる

鑛今昔物語

炭 安政二年以來の 磐城 發達變遷に就て

……某古老は語る……

近來爭議につづくに爭議を以てし近頃では英國あたりにでもちひらるゝゼネラルストラレキなどと云ふハイカラな言葉さへきかれるやうになつたが一体磐城の炭礦なるものは何時の頃から始められたものであらうかその道の某古老は語る

一 鑛區の 面積僅かに三千坪或は五千坪位であつたが六年後になつて後藤象次郎氏が内郷村の字鬼ヶ澤に借區をなして佛人技師を派遣し出來得るだけ火藥を用ひ發破掘に依りて開坑を行つて大に住民を驚かし其の後に於て段々鑛業に志す人開坑を企つる人が増加したが其の需要は未だ振はないで其の

も馬車に依り小名濱港に運び出しそこで京濱へ船積をなし工場や其の他の外人の家庭用に給したのに過ぎなかつたが同十年西南戦争になつて漸く磐城地方の石炭が世人に注目される様になつた、同十六年濰澤榮一淺野總一郎渡邊治右衛門の諸氏によつて

出來なかつた二十一年五月小野田小名濱港間輕便鐵道の施設に従ひ運炭量が非常に増加したので二十七年七月始めて堅坑開鑿に着手して漸く湯本小野田間の專用鐵道が出来て三十年三月常磐鐵道開通と共に各地方へ輸送する事が出来る様になつた内郷炭鑛は二十九年試鑛をなして三十一年一月堅坑及斜坑の開掘に着手して 三十二年十二月に内郷專用鐵道が出来ると同時に斜坑は採炭を開始した町田堅坑は三十四年五月竣成してから多量出炭の運に達したもので四十一年十一月電氣設備の開施と共に

燕麥の栽培

馬の飼育用に

石城地方の産馬業は相當の成績をあげてゐるにも拘らず、飼育用の牧草に困つてゐたが、今回北海道で飼育料として栽培好成績をあげてゐる燕麥を栽培する事となつて郡農會が奔走中であるが、これが指導のため二十日縣農商課から長野技師が來平、郡農會の大山技師、野村技師と栽培指導をなした